

令和 6 年度首里城扁額製作検討委員会

第 1 回 検討委員会資料

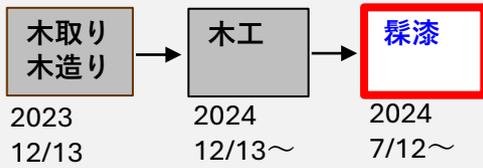
2024年9月25日（水） 14:00 - 17:00

【資料 3】 監修及び作業進捗状況について

1. 地板・吸付棧・額縁木工の進捗
2. 題字の進捗
3. 題字・御印・銘の配置の進捗
4. 御印の進捗
5. 額縁彫刻部の進捗

1. 地板・吸付棧・額縁木工の進捗

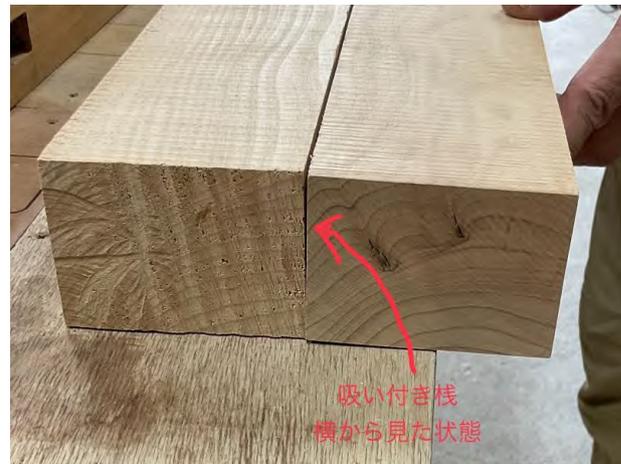
<地板・吸付棧・額縁躯体>作業進捗状況



- ・ 地板・吸付棧・額縁躯体は、令和5年12月から木工を開始、8月に完了。
- ・ 現在、髹漆工程に引渡し済。

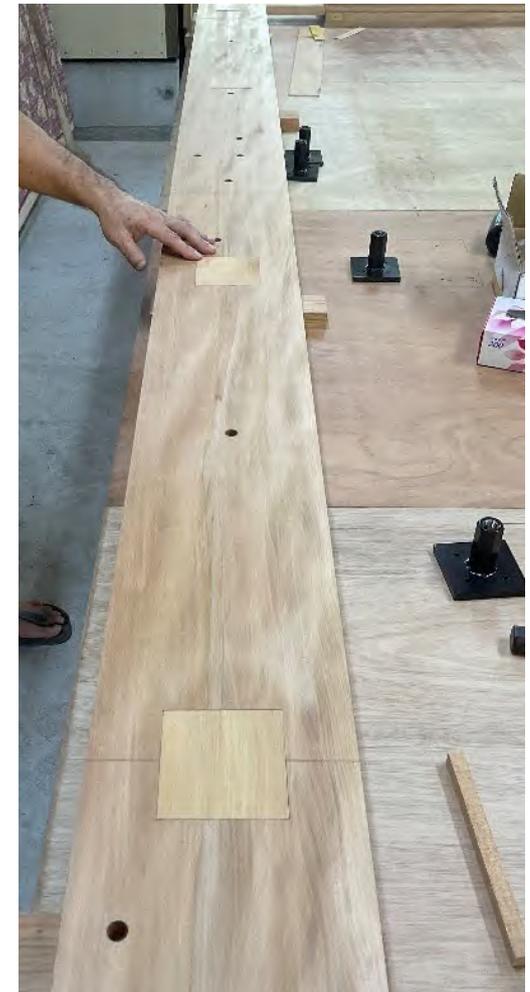
額縁躯体の木地調整 (2024年7月29日~8月1日)

- ・ 6月まで吸付棧仕様再検討のため作業を一時中断。梅雨時期を挟んだため額縁躯体部の木地調整を実施。



取り付け金具 (埋込プレート) の穴あけ (2024年7月31日~8月3日)

- ・ 取付金具用の穴あけ加工を実施。

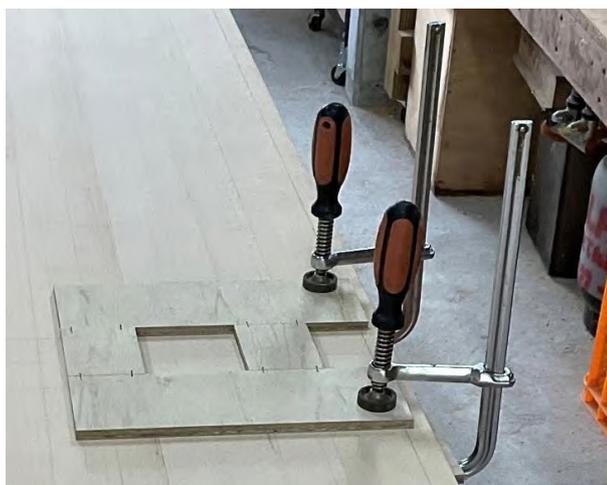
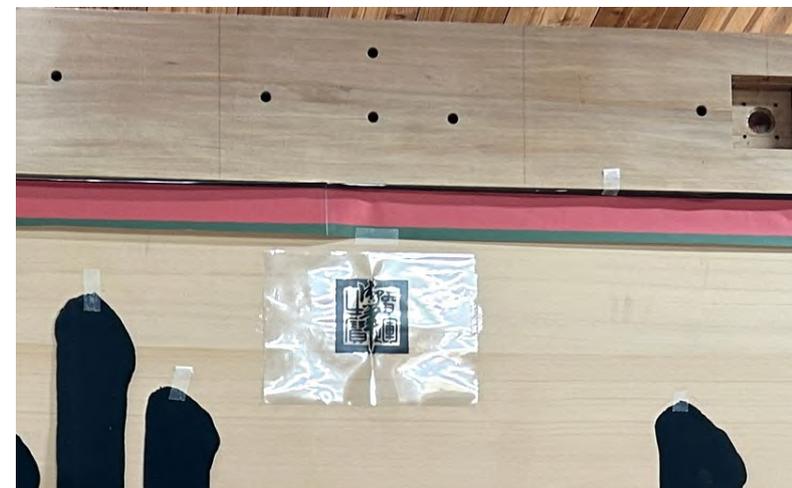
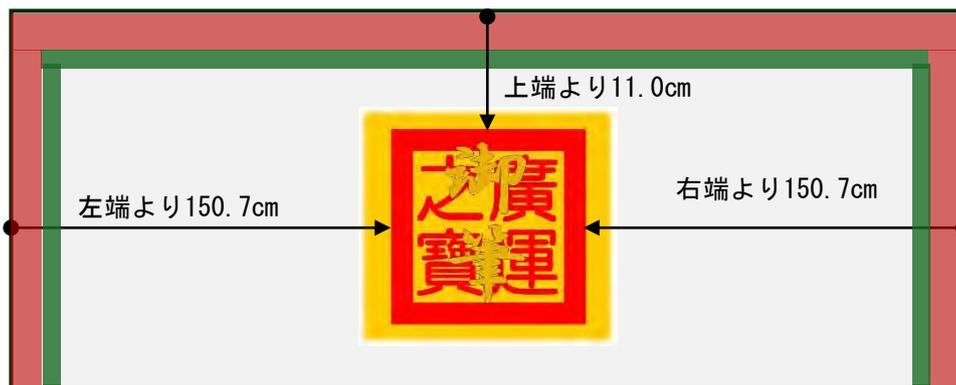


地板表面（御印ホゾ穴）の加工（2024年8月27日～8月28日）

- ・ 2024年8月19日に配置確認を実施し、御印の位置が確定した。
- ・ 御印接合用のホゾ穴は、御印部材より四方3mmずつ小さい83mm角、深さ 9 mmの穴を掘った。

■御印位置（イメージ図）

※数値はいずれも地板の見えかかり部の端からの距離



加工の様子



穴あけ加工完了

地板裏面(吸付棧蟻溝)、吸付棧の加工 (2024年8月15日～8月28日)

- ・ 地板裏面の吸付棧用蟻溝、吸付棧については、若干テーパーをつけて加工。
- ・ 記録映像撮影を実施。(2024年8月16日)



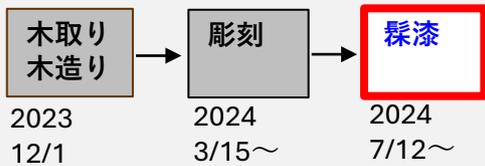
木工作业完了 (2024年8月30日)

- ・ 最終監修を行い木工作业完了。髹漆工程へ引き渡した。



■映像記録撮影 (2024年8月16日)

<題字>作業進捗状況



- 題字は3月から彫刻を開始、7月に完了。
- 現在、髹漆作業に着手中。

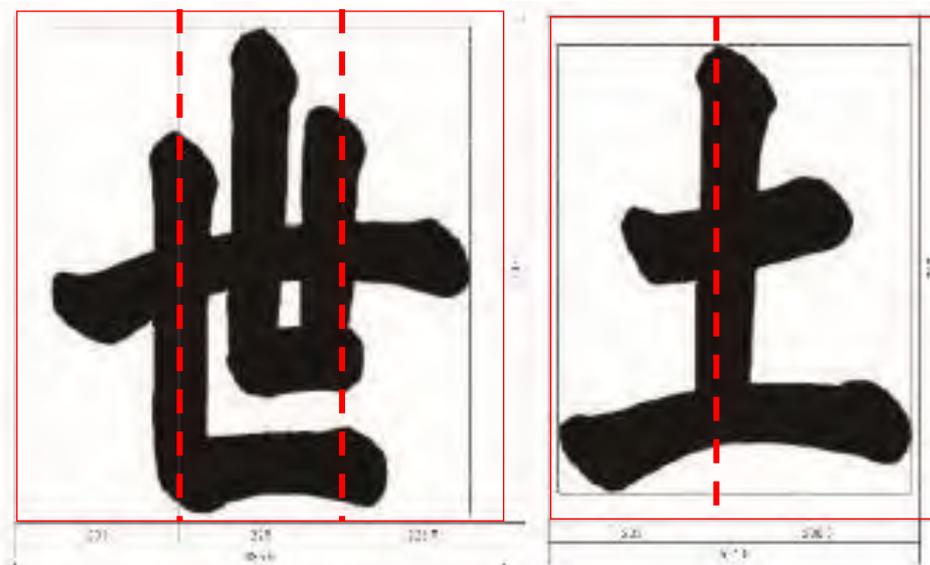
第1回監修(2024年3月14日)

- ①文字輪郭線及びフラット面輪郭線の揺らぎを抑え康熙帝の字の重厚さを出す。⇒監修後文字監修者と確認しながら文字輪郭を決定。
- ①貼付け時のダボ位置と木の接ぎ合わせ位置を考慮して材における文字配置を微調整する。
- ②目指すべき立ち上がり形状や金箔貼りによる視覚的な膨脹等を想定して、部分試作し確認する。

第2回監修(2024年3月27日)

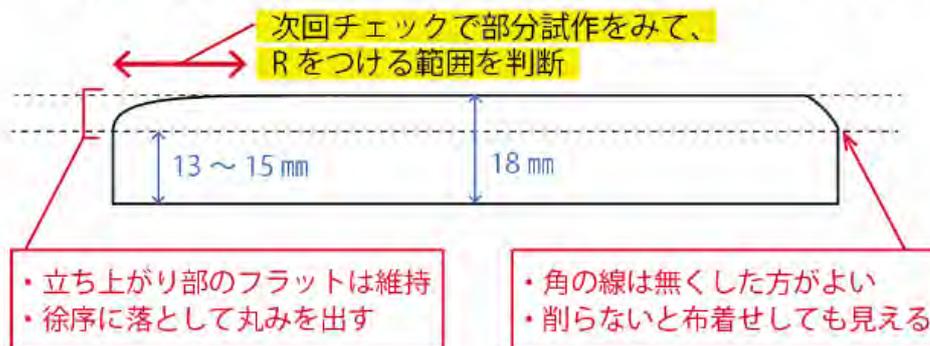
- ①文字の厚みの確保と参考とする扁額「致和」の形状を取り入れるため15mm程度の立ち上がりの後に徐々に円弧状にして、平坦な面に繋がる形状とする。
- ②次回チェックは、部分試作に角の丸みを調整した状態で確認する。部分試作を追加作成して、白木状態と金色塗装後の状態で比較する。

↓木の接ぎ合わせ位置



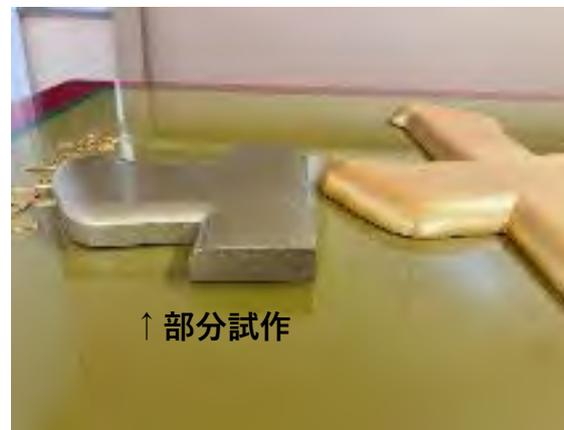
▼目指す形状

3/27 現在の部分試作▼



第3回監修(2024年4月26日)

- ①部分試作を確認し、角の丸みの取り方について部分試作のように進める。
- ②字画の交差部の形状（鋭角部と鈍角部）は、あまり差をつけない。
- ③髹漆作業を経て、丸みが多少増して見える前提で考える。



彫刻仕上がり確認(2024年6月6日)

- ①確定した部分試作の形状で4字の題字彫刻を作成し、彫刻作業を概ね終えた段階で、監修者による確認を実施。今後の髹漆作業を考慮し、現状で彫刻作業の仕上がりとする事とした。



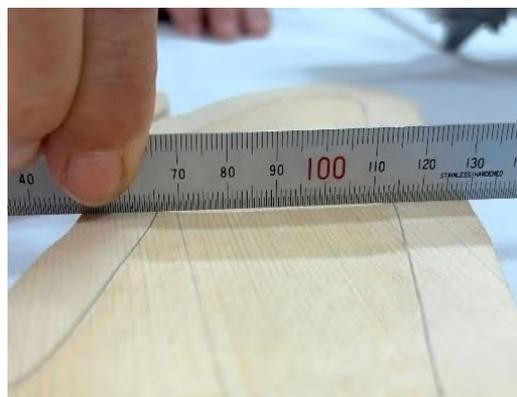
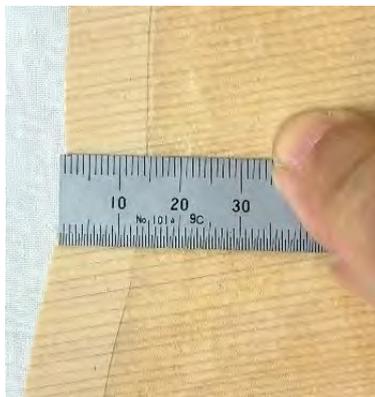
「中山世土」題字彫刻

題字髹漆（2024年7月12日～）

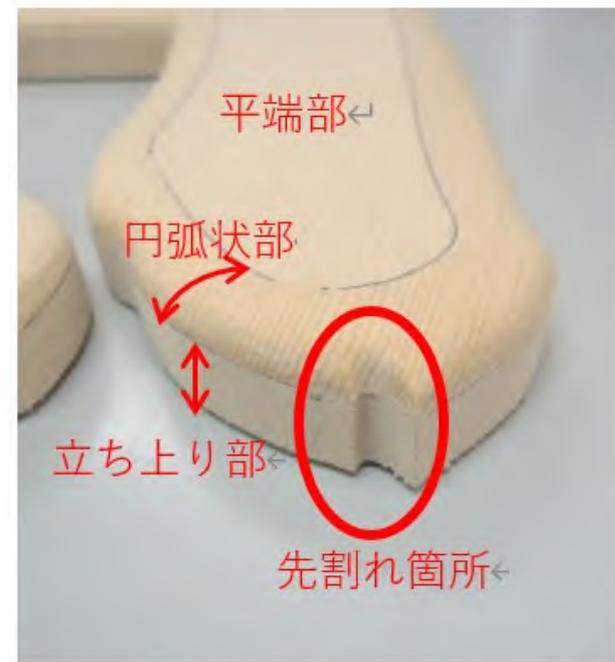
- ・題字髹漆は着手時監修で作業時の留意点や今後の監修内容・時期等を確認のうえ作業を開始した。

①第1回監修（2024年7月5日）

- ・原書の細かい部分を拾っている箇所について、「中」、「山」に見られる彫刻の先割れ表現は刻苧埋めをしてから布着せする。
- ・木地の状態で裏面に0.5mm程度の鋤彫りを実施。地板接合前に再度確認のうえ実施検討。
- ・髹漆の厚みにムラが出ないように、刷毛置きで作業する。
- ・題字の仕上がりは、書家（監修者）により確認する。
- ・変形の抑制のため、保管場所の温湿度環境やウマなどを用いて材の置き方に留意する。
- ・彫刻工程で意図した点を適切に反映させる。



■裏面の鋤彫り（2024年7月11日）



今後の監修スケジュール

- ・第2回監修は、下塗り（黒呂色）を終えた段階を予定。刻苧や目摺り箇所等の仕上がり確認を主な目的とする。
- ・令和7年1月頃に、接合前の地板と題字の変形確認と、鋤き彫りの程度を調整する監修を実施する。

■木地調整、刻苧彫り、木地固め (2024年7月12日)



■刻苧埋め (2024年7月17、18日) ⇒次頁

■刻苧掻い (2024年7月18日)



2. 題字の進捗

■先割れ部の刻苧埋め (2024年7月18日)

幸喜技術者の監修のもと、彫刻で先割れ表現のある箇所については、垂直に立ち上がる高さまでを刻苧で埋めて補修した。

木地の状態(左)と刻苧埋め後(右)



■目摺、目摺空研ぎ、地固め、布着せ (2024年8月1日～23日)



配置決め監修

- 8月19日に文字・落款WG委員・監修者による題字・御印・銘の配置確認を実施し、御印の位置を確定した。
- 原書から地板に写す際のバランスを考慮し、題字・御印・年月銘・縁塗りを地板に再現し扁額を立てた状態で、書家により配置の確認のうえ、題字を若干(5mm程度)下方へ調整するなどして決定した。



調整後の配置

<御印>作業進捗状況



- 御印は8月から木工・彫刻を開始、8月中に完了。
- 現在、髹漆工程に引渡し済。

①第1回監修（2024年8月8日）

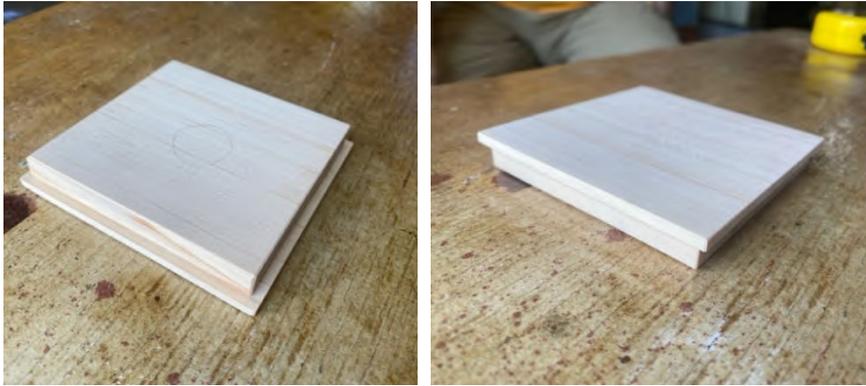
- 形状は当初図面のとおりとし、接合時に微調整する。また、麦漆塗布用の空間（地板穴底面に対する御印凸部の出具合）は彫刻技術者が調整・加工する。
- 穴あけは当初予定通り木工段階で実施。地板の柄穴の肩部が髹漆作業で研ぐ際に強く削れてしまわないよう、穴を塞ぐ仮材を入れ込むこととする。緩めの嵌りで布着せ後に取り外せるようにする。
- 接着剤（麦漆）の塗布範囲については差込部裏面のみとする。
- 印面(正面)のみが赤、立ち上がり部(側面)は黄色とする方向で塗り分けのサンプルを製作する。
- 第2回合同ワーキングにて、彫刻の完成品、塗り分けのサンプルを確認する。



4. 御印の進捗

②木工加工、印面の最終調整

木工完了、彫刻引き渡し時の状態 (2024年8月10日)



印面調整 (2024年8月15日)



「御筆」と印影の文字が識別できるように、彫刻する印影図を整理。

③彫刻

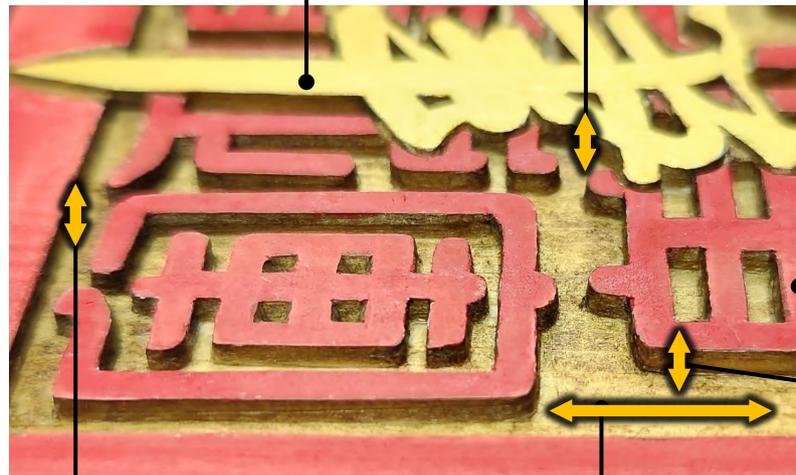
彫刻完了 (2024年8月22日)



④印影及び御筆の塗り分け

①“御筆”の表面：金薄磨

②“御筆”立ち上がり部 (側面)：黄色塗



③印影 (表面)：朱塗

④印影立ち上がり部 (側面)：黄色塗

⑤印影外枠の立ち上がり部：黄色塗

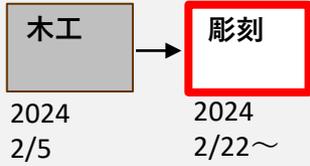
⑥底面：黄色塗

※黄色塗は地板の塗りと同様



→2024年9月10日に監修者、委員で彫刻の仕上がり及び塗り分け方法を確認し、髹漆作業に進めることの合意を得た。

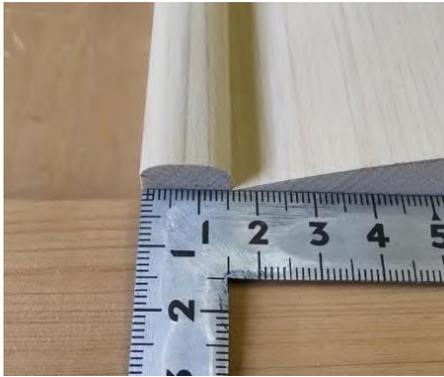
<額縁彫刻部>作業進捗状況



- 額縁彫刻部は2月から木工を開始し、同月中に彫刻工程へ引渡し済。
- 彫刻工程は木取り成型、絵付けを終え、現在、各辺ごとに彫刻を進めている。

①木取り（蒲鉾型）成型

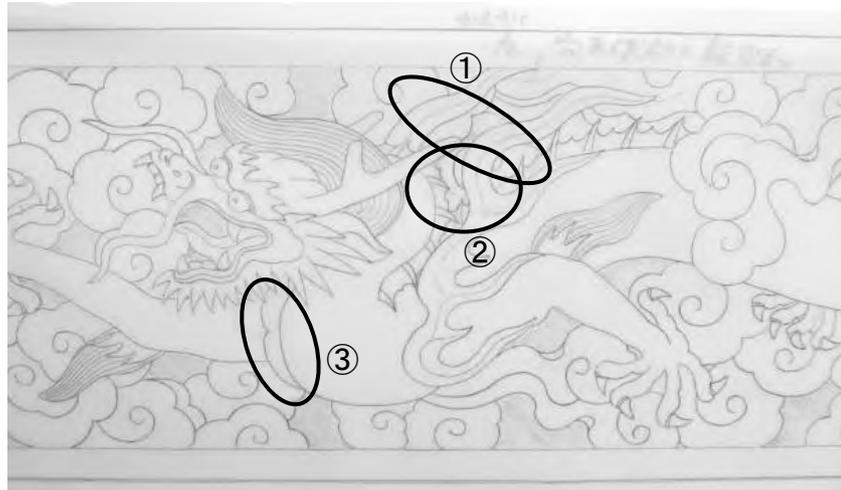
木取り（蒲鉾型）成型完了（2024年4月25日）



② 絵付け

- 額縁試作品の下絵から、ワーキング、委員会で指摘のあった箇所や、試作の彫刻作業を踏まえた改善事項等を反映した修正を行い絵付けを実施。
- 正龍は、試作品正龍の3Dスキャンを2D投影した図をもとに絵付けを実施。

絵付け完了 (2024年5月22日)



下絵修正箇所 (一部抜粋。各辺とも修正箇所あり。)



木地への絵付け

【正龍】



原寸試作品
をスキャン
して2D投影



2D投影した図をもとに絵付け

③側辺の彫刻

- 側辺の彫刻は6月下旬頃より穴あけ・粗彫りを進めている。側辺2本のうち、左側辺は仕上彫りまで概ね完了し、右側辺は粗彫りまで進めている。
- 今後、毛彫り、鱗の彫り、七宝繋の彫り等の微細な部分についても原寸試作に倣って仕上げ彫りを実施する。側辺2本の仕上げ彫りは令和6年10月頃に完了予定。

■左側辺、右側辺穴あけ後の状態 (2024年6月20日)



■左側辺、右側辺 (2024年8月27日時点)



■左側辺 仕上彫りの状態 (2024年8月19日時点) ※毛彫り、鱗の彫り、七宝繋は除く

※破線が繋ぎ合わせになるライン



④下辺行龍の彫刻

- 下辺の彫刻は6月下旬頃より穴あけを始め、下辺左右ともに粗彫りまで進めている。令和6年9月末頃に仕上彫りに進む予定。

■下辺粗彫りの状態（2024年8月23日時点）



右下辺



左下辺



左下辺



⑤ 下辺火焰宝珠の彫刻

- 火焰宝珠は令和5年度令和5年度木工・彫刻／文字・落款合同ワーキング（2024年3月1日）にて下図を確認し、原寸試作の作業を進めている。
- 第3回ワーキング（R6.12～R7.1月頃）の時期に試作品を確認し、その後適宜監修を実施して本製作へ反映する。

■ 下辺火焰宝珠試作（2024年8月23日時点）



モデル図案；円覚寺欄間羽目板



R5ワーキング B案の下図